



婦人会活動②

～戦後(昭和20年代から30年)

連合婦人会から置婦協へ



置戸映画館で行われた婦人による演芸会

戦前、銃後活動に協力し、軍用兎毛献納運動で全道一の成績を挙げるなど、活発な活動を展開した大日本婦人会置戸支部も終戦によって解散。

戦後は、昭和22年7月中旬より3週間、学校長、保健婦、役場の教育係等が講師となって毎晩各町内、集落会ごとに婦人座談会等で啓蒙が行われ、翌23年には30の単位婦人会が発足。これら単位会の連絡調整を図るため同23年8月22日、置戸村連合婦人会を結成し、初代会長には逢坂君子が選出されました。

結成直後の婦人会は、新憲法で認められた男女同権に基づき、婦人の地位向上を目指した教養の充実に力が注がれ、教養講座の開設、生活合理化運動などが取り上げられました。



初代会長 逢坂君子

昭和24年の置戸村公民館開設、同25年の勝山、境野、秋田の分館開設、同26年の本館昇格と、各地区公民館新築に伴い、婦人会はそれぞれの公民

館活動の中核的存在となり、婦人学級、生活学校等に積極的に参加する傍ら、敬老会や成人祭への協力、生活困窮者援助、雑巾寄付など、社会福祉活動を取り上げるようになりました。特に、置戸地区婦人会は、遺家族慰安、資金造成、親睦強化の目的をもって演芸会を行い、その収益金で学校備品の寄贈や、婚礼衣装の貸し出しを行うなど、生活合理化運動に積極的に取り組みました。さらに、同29年には部制を設けて婦人会活動の推進を図り、芸能部の演芸会による資金造成、当時頻発した山火事に出動する消防団員の炊き出しに活躍した消防部、婚礼料理の協力まで引き受けた生活改善部など、婦人会の活動は目を見張るものがありました。

なお、昭和26年には41単位会・会員1,066人を数え、婦人団体数・会員数の人口比全道一となった連合婦人会は、昭和30年に置戸町婦人団体協議会と改称。同年、全町婦人大会も開かれるようになって組織はさらに拡大していきました。

(参照：置戸町史下巻、置女協創立60周年記念誌)



今月号の「きらりっ!人」は、8月9日に赴任した英語指導助手のジョン・ウェーバーさんを紹介します。

ハロー！ジョンです！

英語指導助手 ジョン・ウェーバーさん



Q出身地はどこですか？

アメリカのペンシルベニア州です。

Q背が高いですね！身長は？

191cmです。

Q年齢は？

23歳です。今年の5月に大学を卒業したばかりです。

Q出身大学は？専攻は？

アールブライト大学で経済学と企業経営を専攻していました。

Q趣味は？

楽器のドラム、バスケットボール、写真です。

Q特技は？

楽器のドラムと親しみやすいことかな？

Q置戸(日本)でやってみたいことは？

日本語の勉強、スキーやスノーボード、富士山登山、日本料理などです。

Q将来の夢は？

MBA(経営学修士)の取得と、CEO(最高経営責任者)になることです。

Q町民の皆さんへ一言！

お世話になります。どうぞよろしく。サンキュー。